

あき

MA

YUMI



August
2022

8

PUBLIC INFORMATION PAPER OF UMEGAOKA

医療法人圭愛会 日立梅ヶ丘病院

No, 92

永年勤続表彰

40年を振り返って

看護部 E棟 酒井通朝

この度は永年勤続表彰をいただき有難うございました。1982年(昭和57年)4月に日立梅ヶ丘病院に入職し40年が経過しました。職員の皆様には多くのことを教わり、貴重な経験をさせていただき感謝しております。

40年を振り返ると、患者様を対象とした県北レクリエーション(ソフトボール)や、ひたちなか球技大会参加、日帰り旅行(遠足)でお台場・海ほたる・横浜中華街など引率したことを懐かしく思います。

病院行事として、患者様の家族や地域の皆様も来ていただいた盆踊り大会や梅ヶ丘祭などの準備・運営をして参りました。梅ヶ丘祭では当時は外に舞台を作っていました。職員の出し物が各部署からあり女装や仮装、ダンスなどを昼休みや退勤後に練習したことを思い出します。

多機能型事業所まゆみの里(現：就労支援事業所)では養鶏作業で名古屋コーチンとボリスブラウンを育て、塙山さん祭りやその他のイベントなどに参加して、卵を販売しました。

今後も40年の経験を活かし頑張っていきたいと思っておりますので、変わらないご指導を賜りますようお願い申し上げます。



30年を振り返って

訪問看護室 小野浩子

この度、永年勤続30年表彰を受け、自分なりに振り返ってみると、いろいろな事ことが走馬灯のように蘇って参りました。

当院に就職してから出産し、外来勤務しながら仕事と育児を両立できたのは、家族の協力はもちろん、職場の皆様のご理解とご協力をいただいたことで乗り越えることができたことに感謝しています。

慰安旅行では、毎年いろいろな観光地に連れて行っていただきました。特に開院20周年で行った北海道旅行、30周年での前院長の故郷愛知県篠島に行ったことが思い出深く、昨日のように印象に残っています。

勤務場所は全病棟経験させていただき、夜勤業務も遂行することができました。看護部では主任、現在のアウトリーチ部では課長補佐という大役を担っています。プライベートでは、母親を永い間入院させていただき、その際に院長先生初め、病棟職員の皆様には手厚い看護をしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

あと何年勤務できるかわかりませんが、これからも頑張っていこうと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

令和4年度 永年勤続表彰

40年	E棟	酒井通朝
30年	訪問看護室	小野浩子
20年	栄養課	菊地義浩
10年	栄養課	小林孝行
	栄養課	山下力之
	B棟	志賀桂子
	D棟	佐藤聡美
	作業療法室	佐藤邦彦



(左) 酒井さん (中央) 院長 (右) 小野さん

作業療法室だより



ひさびさ料理レク開催！

作業療法室 眞田大輝

6月7日、料理レクとして抹茶プリン作りを行いました。本来なら5月中に行う予定でしたが、日立市内の新型コロナウイルス感染者増加を受け延期になっていました。患者様方からは残念がる声が多く聞かれていましたが、6月になり感染が落ち着いた時期をみて無事に実施することができました。抹茶プリンの上にアイスとフルーツをのせ、最後に黒蜜をかけることで、色味もきれいなものに仕上げることができました。久しぶりの料理レクで多くの方に参加していただき、「美味しかった」「楽しかったよ」と言っていました。

楽しみにしている患者様も多いため、コロナの収束を祈りつつ次回も期待に応えられるように準備していきたいと思います。



プランター園芸 始めました

作業療法室 佐藤理緒

急性期病棟では作業療法のプログラムとして、毎年春から夏にかけて、ベランダでプランター園芸を行っています。患者様と協力して、苗植えや水やり、間引きなど、植物の世話をしながら成長を見守っています。

今年は5月25日からスタート！野菜のミニトマトだけではなく、花のコスモスやペチュニアにも挑戦しています。

3週間経過した時点では、ミニトマトにはいくつか花が咲き、コスモスなどは少しずつ芽がでてきています。夏頃が楽しみです！



元気に育て～～♪



第47回日本精神科看護学術集会に参加して

看護部 D 棟 手塚直美

第47回日本精神科看護学術集会が去る6月24日、25日に沖縄コンベンションセンターで開催され、参加してきました。学術集会主題は「地域づくりにおける精神科看護職の役割」で、基調講演、シンポジウム、第2回精神科看護 CONGRESS として6題、看護研究の発表が189演題あり、更に10演題のワークショップ、交流セミナーがありました。

当院の認知症治療病棟の齋藤英雄さんが、看護研究論文「認知症カンフォタブル・ケア実践の方向性」を発表しました。この研究は第15回院内学会で発表し、常磐大学の池内先生や茨城県立医療大学の中村先生をはじめ様々な方にご指導・アドバイスをいただき、今回の発表に至りました。齋藤さんは堂々と発表されていました。齋藤さんの発表に対し3つの質問があり、また座長の佛敎大学の末安民生先生から研究を更に良くするための助言や研究にすることの意義について話していただき、学びを深めることができました。

今回の学会で少し残念だったことは、オンデマンド配信による発表が多く、これらの発表に対しては質疑応答がなかったことです。しかし、会場での発表に対しては質疑応答、意見や感想が活発に述べられていました。また精神科看護 CONGRESS やワークショップでは、現在の精神科看護の課題や方向性について参加者でディスカッションすることができ、多くの学びと貴重な体験をすることができました。

新型コロナウイルスの感染症がまだ落ち着かない中、学会に参加させていただきありがとうございました。この学びや体験を今後の看護活動へ活かしていきたいと思ひます。



ふるさと自慢

沖縄県

故郷沖縄

看護部 D棟 立花勝美

私のふるさは、沖縄本島で那覇空港から南東に車で 30 分程度のところにある糸満市です。

近くには、平和記念公園があり、公園内には、平和の礎があります。沖縄戦終焉の地です。ひめゆりの塔は、沖縄戦末期に沖縄陸軍病院第三外科が、置かれた防空壕の跡に立つ慰霊碑です。

また、琉球ガラス村では、ガラス細工づくりの見学や、創作体験もできる所です。これらは、糸満市の観光地です。

今年は、沖縄復帰 50 周年になりました。復帰の時、私は小学 5 年生でした。通貨がドルから円に変わり、お金の価値も分からず戸惑ったことを憶えています。

沖縄県において、復帰から 6 年後の昭和 53 年に、自動車の対面交通が、右側通行から左側通行に変更することを、事前に周知するため実施されたキャンペーン 730(ナナ・サン・マル)は、変更施行月日である「7 月 30 日」に由来することで施行していました。また、父親が、自動車の運転席から見えるように、「左側通行」と大きく書いた張り紙を車内に貼っていたのを覚えています。車線変更当日は、特に交差点での事故が多発したとのことでした。

沖縄には、古くから三線を床の間に飾る文化があります。三線を弾いて歌い踊ることは、自然体の特徴とする芸能です。私も趣味で、三線を時々弾くことがあります。故郷を思い出して、帰省したくなります。



ふるさと紹介

看護部 D棟 澤畠真実

私のふるさとである、和歌山県の南部にある『南紀白浜』を紹介したいと思います。大阪から特急で 2 時間、東京からは羽田空港より一時間で行ける、海とパンダと温泉で人気の関西屈指のリゾート観光地です。

～海～ かつてガラスの原料となったほど、真っ白でサラサラな砂の『白良浜』は、海水浴場ハワイのワイキキビーチと姉妹浜になります。青い海ときれいな砂を眺めているだけで心が癒されます。家から近いので水着のまま行くことができ、子供の頃は毎日遊びに行っていました。高校への通学は、港まで自転車で行きそのまま船内に乗り込みます。眺めの良いデッキで潮風を感じながら通学していました。しかし、海が荒れると酔い、台風が近づくと欠航します。

～パンダ～ 「アドベンチャーワールド」にはパンダが 7 頭と、日本で一番多く飼育されており、可愛いパンダを心ゆくまでゆっくりと見られます。実物は意外と大きいです。動物は約 1,400 頭いて、動物好きにはたまらない夢の国です。お薦めはイルカのナイトマリンショー！！夜の神秘的な世界を演出し音楽と迫力ある演技、フィナーレには花火が空高く上がり毎回感動させられます。

～温泉～ 1400 年も前から歴史ある温泉です。町内に源泉 15 か所、温泉 25 か所と充実しており、その中でも「崎の湯」がお勧めです。雄大な太平洋が間近に迫る露天風呂は、岩に打ち寄せる波を感じながらの入浴で開放感を味わえます。

その他に、三段壁や円月島の絶景スポット、SNS で話題のエネルギーランド、男女陰陽が御神体の歓喜神社、まだまだ紹介しきれないところがたくさんあります。私の心と体を元気にしてくれる大好きな町です。



私の看護観



(新人看護職員継続教育：レベルⅢ修了者)

看護観とは、「看護師として患者にどのような看護を行うか」という考えである。

私は、精神科病院に勤務して3年が経過します。日々の看護実践において大切にしていることは、患者に関心をもって、可能な限り患者の傍に寄り添い個別性のある看護を提供すること・プロフェッショナルとしての責任をもち看護を提供することである。

私は、入院患者に一番近い存在は看護師であると考えている。そこで、看護師は誰よりも患者のことを理解しなければならない。入院生活で患者は何を望んでいるのか・退院するには何が必要なのかについて、日々の看護実践から情報収集をすることが必要である。更に、受け持ち看護師として、知り得た情報を分析し多職種と情報を共有・連携しながら看護過程を展開することが求められている。

精神科病院に入院している患者への関わりは、特に個別性のある看護サービスの提供が必要であるとする。統合失調症の患者には、幻覚・妄想が著しく自傷他害の恐れがある患者、日常生活動作の低下が目立つ患者、他患者との人間関係を構築することができず、看護師の介入が必要な患者など、疾病が同じであっても症状が多様で、日々変化し個別性が著明である。そのため、看護師は、どのような患者なのか・患者は何を望んでいるのかを情報から明確にアセスメントすることが重要である。アセスメントを通して、看護上の問題点の優先順位を考慮し、看護計画に沿った看護実践を看護チーム全員で展開することが精神科においては特に重要と考える。

私は、今後も日々の看護実践を大切にしながら、より良い看護サービスを提供できることを目指していきたいと考える。更に、個々の患者に常に関心を持ち、プロフェッショナルとしての厳しさを忘れることなく日々研鑽することを継続していきたい。



(新人看護職員継続教育：レベルⅢ修了者)

看護師は、患者が自分らしい生き方をできるように常に寄り添い支援することが必要である。更に、看護師には、緊急時において必要な看護技術を迅速且つ正確に提供することが求められている。

認知症治療病棟に配属になり、入職時は看護の知識や経験も乏しく、日々の看護業務をこなすのが精一杯であったが、准看護師免許を取得し3年目を迎えた私は、先輩方の看護実践・勉強会を通していろいろなことが少しずつ自分なりに理解できるようになった。認知症は、発症すると患者はとても辛く、寂しく、孤独であることがわかった。多くの患者が医療保護入院であることから、入院時は自分の置かれた状況に混乱し、帰宅要求を訴え続け、中には怒り狂い疲れ果てて眠りに落ちる場面を日々耐え難く感じている。入院後、患者が一日も早く入院生活に慣れ、安心していただけるには、受け持ち看護師として患者情報のアセスメントから看護の方向性を考えることが重要である。

患者の人生の主人公は、患者本人である。入院生活が楽しいと思う時、食事が美味しいと感じる時、家族の待っている家に帰りたと思う時、死んでしまいたいと思う時等、患者に訪れる様々な看護場面に、私はその患者の人生の登場人物の一人として関わる責任を意識し真剣に役割を担っていきたいと考える。

入院中の患者は、将来の自分の姿の一側面、晩年の縮図なのかと感じ、自分はどのように生きていきたいのか考えさせられるこの頃である。一人一人の患者の気持ちをより深く理解したいと思う気持ちを大切にしていくことが、自己理解に繋がると考える。今後も、スタッフ全員で取り組んでいるカンフォダブル・ケアの継続と振り返りを大切にしながら、患者が少しでも自分らしい生き方をできるように、患者に寄り添える支援をしていきたい。



(看護職員現任教育実務コース：1年目修了者)



社会情勢からか看取り、いわゆる最期の時に関する研修が多く見受けられるようになった。看取りにおいて、看護師は冷静であらねばならないと感じている。看護師には、必要な情報を的確に提供し、時には共感し、相手の立場に立って考え、患者・家族が最良の選択ができるように支援する専門性が求められていると考えている。そこで、最期の場面に立ち会った看護師には相当のエネルギーが求められる。その心理的負債を看護師はどこで解消しているのか不思議であった。一方で、患者・家族の意志決定過程をたどっていない突然の看取り、いわゆる急変に遭遇することもある。その時の看護師の心的エネルギー消耗は計り知れないと自己の経験から感じている。

自己の経験では、目の前で患者の急変が起こり死亡された経過をたどった事例が、本当に予期せぬ急変であったのか、やれること、やったこと、考えたこと、実際の状況を一枚の表にして考えると、たくさんやれることがあったことに気が涙が溢れた。なぜ、自分が泣いているのかわからなかった。悔しかったのか、未熟だと痛感したのか、良い人と思われたかったのかわからない。「もしも、他の看護師が勤務していたら、患者が急変しても救命できたかもしれない」とも考えた。そこで、私は一人でデスカンファレンスしてみたが「次の勤務に行く資格がない」というところに落ちてしまった。看護師という職業を生業にしている仲間たちはこの過程を一体どのように乗り越えるのか知りたく、先輩にその思いを伝えた結果、私は先輩に看護されてしまったのである。

デスカンファレンスは、思いの吐露である。誰も否定も肯定もしない。泣いても笑ってもいい。あるがまま見つめ直す時間、亡くなった方からの最後のメッセージを受け取り、何を思うのか、こういう考え方もあるよねと共有する時間となる。看護師としての経験年数が少なくても共有することで考え方に幅がでると実際の経験から感じている。「一人より二人、若しくは係わった全ての人」、そう思わせてくださった先輩のI・Rさんには感謝しかない。よって、看護師四年目の私の看護観は、「互いに学びあい、高めていこう。たくさんの看護師(人)から学ぶ、私じゃない看護観(価値観)」となる。



(看護職員現任教育実務コース：2年目修了者)

私は、看護学生の頃から看護について、「患者に寄り添い、その人が希望するその人らしい生活を送れるように援助する」ことであると、一貫して変わることなく現在も考えている。

1980年頃から地域包括ケアシステムが構築され、高齢者や障がい者の支援を目的とした総合的なサービスを地域で提供し支え合うことが求められている。

私は、現在、「地域包括ケア会議」のメンバーとして、患者が入院中だけに限らず、退院後も地域で安心して生活できるようにするために、入院中にどのような援助が必要なのかを考え、日々の看護実践をしている。当院では、患者が退院後も安心した生活を自宅や施設で送れるように「安心生活プラン」を導入し、患者一人一人に合わせたプランの作成をしている。安心生活プランを患者と一緒に作成することで、変調のサイン・変調時の対応等を考える過程は、患者に寄り添った看護の展開に繋がる。安心生活プランは、患者の疾病教育や退

院後の変調時の対応が円滑に実施できる効果もあり、私自身が掲げている看護観にも重なる。日々の看護実践を通して、患者との信頼関係を構築していくことで、「安心安全プラン」がより良いものとなると考える。

更に、後輩への関わりや実習指導者としての看護学生への方向づけの難しさを日々感じている。今後も、自己の看護観を大切にしながら、常に、共に学ぶ姿勢で後輩や学生の育成に取り組んでいきたい。





精神科デイケア プログラム再編！



精神科デイケア 富田靖英

厚生労働省を中心に、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい生活が続けることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労）、地域内で助け合い、教育が包括的に確保された「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けて動いています。その中でも精神科デイケアには、今まで以上に地域と連携し地域から利用しやすいシステム作りが求められています。そこで、当院ではR4年2月より「本質的に当事者の目線に立った精神科デイケアのあり方はどういうものなのか？」「地域の実情に合わせたリハビリテーションを模索していこう」の思いを胸に、参加メンバー個々のニーズを再確認し、プログラムの再編・地域への啓発活動等に取り組んでいます。

プログラムでは、①脳トレや認知行動療法のSST（社会生活技能訓練）をグループで実施する。②福祉サービスや健康についての勉強会を定期的に開催する。③目的を意識した手工芸・運動等のプログラムを、参加する当事者がプログラムを企画・立案する「メンバー企画」を実施しております。その結果、プログラムに今まで関心がなかった当事者の方々が意欲的に参加し、今まで語られなかったメンバーさんの思い・ストレングス（力）に触れる貴重な機会も多くなりました。

今後も、メンバー個々の思いに寄り添いながら、更なる地域との深い繋がりを持ち、発信力を高めていくことを意識して精神科デイケアを運営して参ります。精神科デイケアに興味・関心のある方がおられる際には、お気軽にお問い合わせください。



☆問い合わせ先☆
日立梅ヶ丘病院 精神科デイケアまで
0294-34-2103（代表）



医療法人 主 愛 会 日立梅ヶ丘病院

所在地：〒316-0012
茨城県日立市大久保町 2409-3

IT委員会 鈴木啓之 吉田靖志 富田加代子 飛田英明 佐藤正啓
広報紙部会 大場史織 佐藤理緒 鈴木明日美 照山千春

TEL : 0294-34-2103
FAX : 0294-33-1800
URL : <http://umegaoka.or.jp>



編・集・後・記 と 表・紙・解・説

今回の真弓 92号は、学会参加とふるさと紹介が偶然にも沖縄繋がりとなり、更に今年は沖縄本土復帰 50周年でもあり、テーマは“沖縄”で編集しました。

学会参加の職員さんには発表で忙しい中、沖縄現地の写真を撮っていただきました。その中から、ぎのわん海浜公園の写真を表紙にしました。夏にぴったりの表紙になったと思います！

まだまだ暑い日が続きますが、皆様ご自愛ください。

鈴木明日美

